

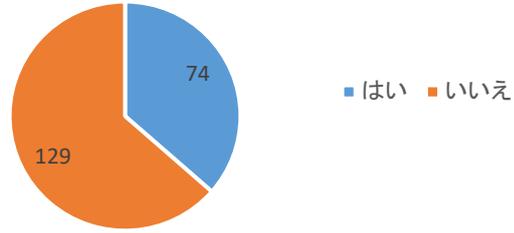
# 令和5年度アルコールに関するアンケート調査結果

アルコールパッチテスト実施(アンケート回答)者数:学部1回生203人

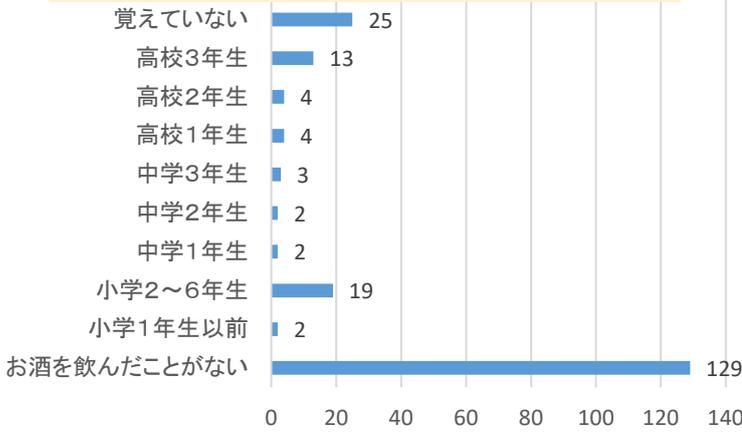
あなたの年齢をお答えください。



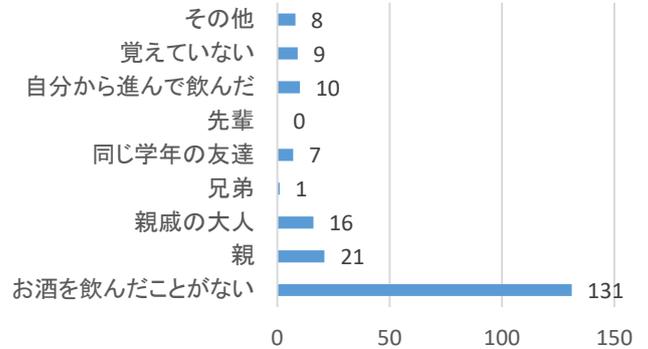
あなたはお酒を飲んだことがありますか？1口以上のお酒を1度だけでも飲んだ事があれば「はい」お答えください



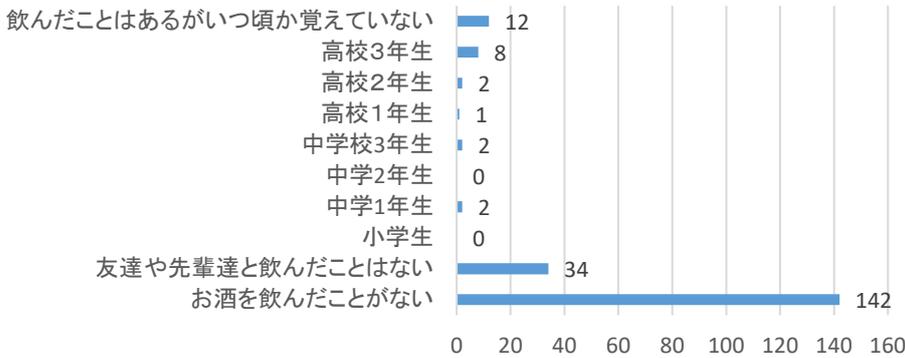
あなたがはじめてお酒を飲んだのはいつですか？



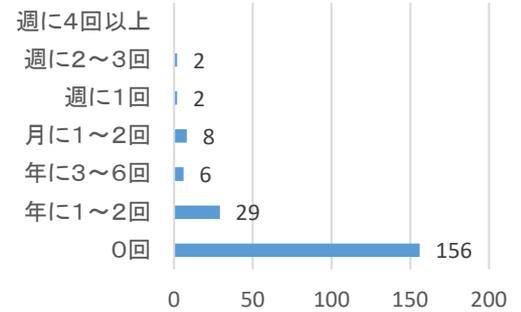
あなたが初めてお酒を飲んだときに、あなたにお酒をすすめた人は誰ですか？



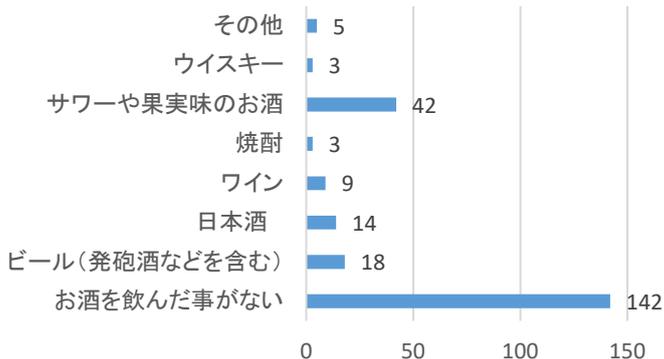
初めて友達や先輩などとお酒を飲んだのはいつ頃ですか？



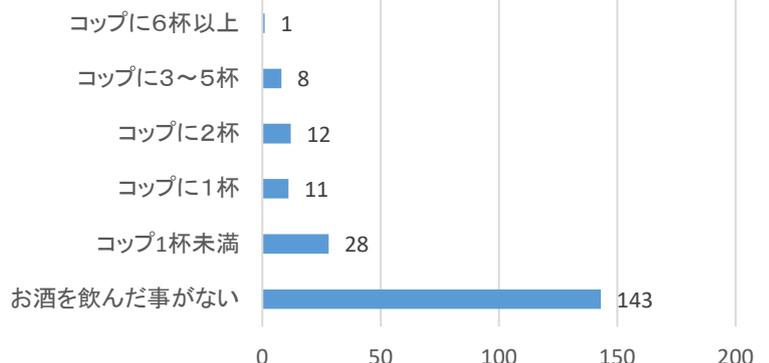
あなたはこの1年間に、どのくらいの頻度でお酒を飲みましたか。



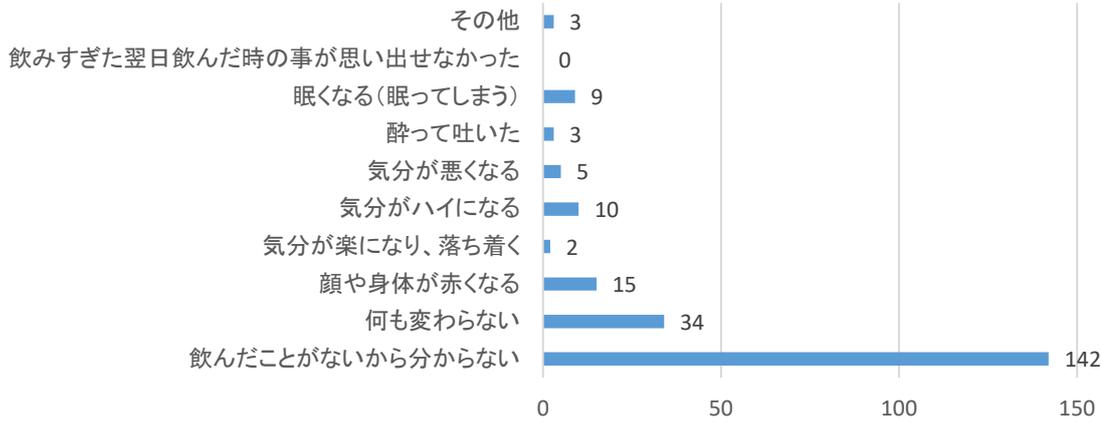
あなたが飲むお酒はどんな種類ですか？



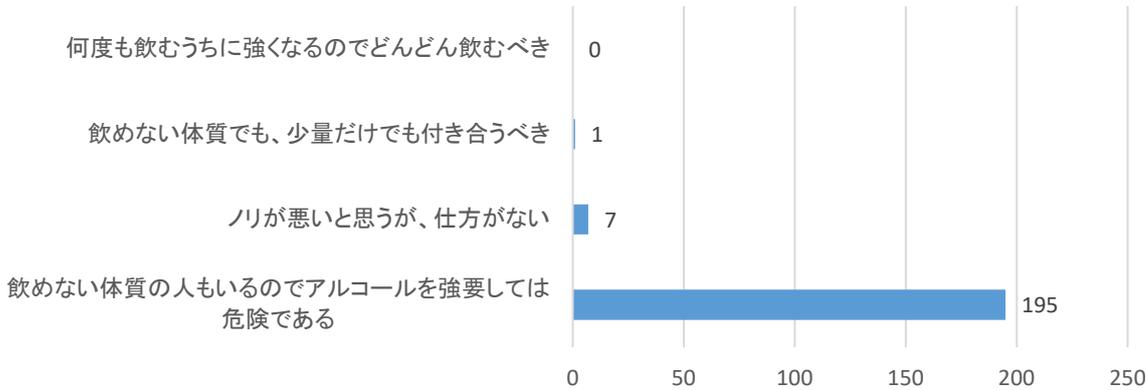
お酒を飲む時にはどのくらいの量を飲みますか？



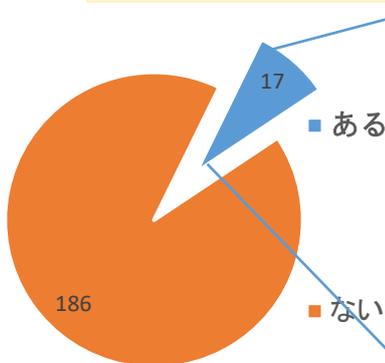
あなたはお酒を飲んだ時にどんな変化がありましたか？（複数回答可）



アルコールが飲めない人に対してどのように思いますか？



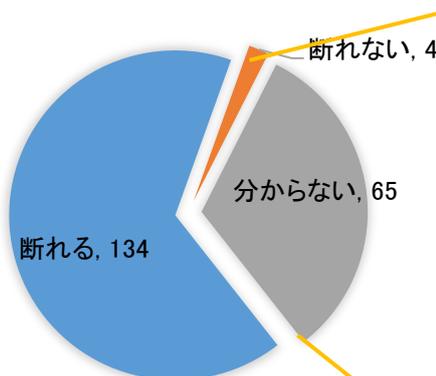
あなたはこの一年以内に、場の雰囲気や飲まされている現場にいたことがありますか？



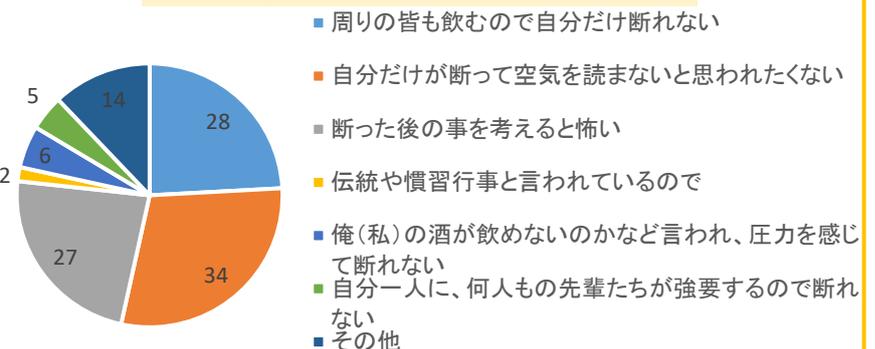
それは、どんな会合の出来事でしたか？



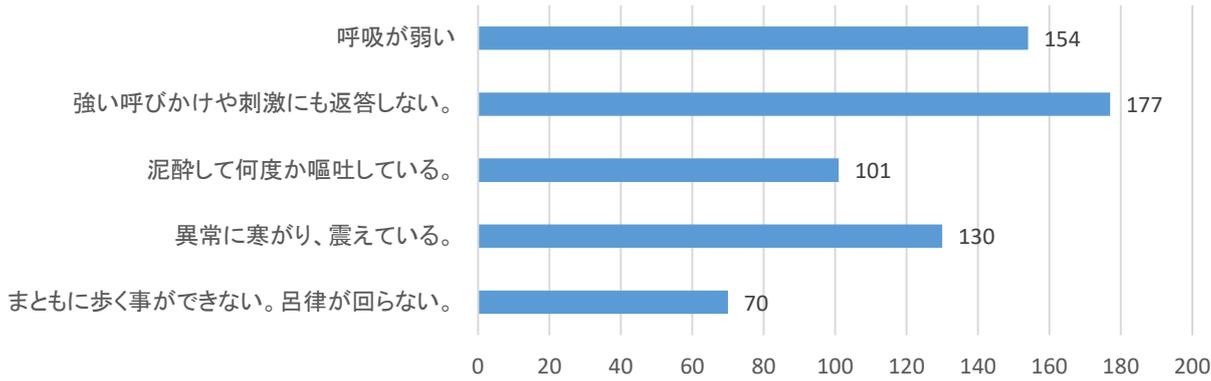
あなたはアルコールハラスメントを受けた際、断る事ができますか？



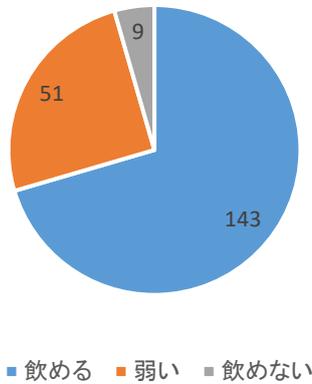
断れない、分からない理由を教えてください。



あなたは一緒に飲んでいた相手に異変を感じた場合、どのような症状があれば救急車を呼ぶなどの対応をとりますか？（複数回答可）

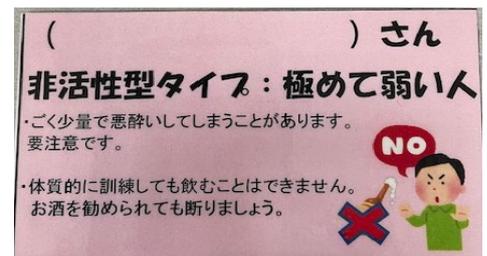


アルコールパッチテストの結果を教えてください。



◆保健センターでは、アルハラ防止のためアルコールパッチテストが「飲めない」の結果だった学生さんに「飲めませんカード」を渡しています。この取組みについてご意見をいただきました。

- ・もう少し小さなものだと持ち歩きしやすいかなと思いました。
- ・お酒を断る理由になって、とてもいいと思います。
- ・自分を守ることに繋がるし、周りも飲めないことが分かるからいいと思う。
- ・アルハラ防止に繋がる素敵な取組だと思えます。
- ・欲しいなら持ってたらいんじゃないかな。
- ・意思表示の手段が増えるため良いと思う。
- ・飲めないことを証明できる良い方法だと思えます。
- ・カードがあることで、断りやすさが増すと思う。
- ・飲酒を強要されても自分の言葉で断ることができない時に役立つ有効な手段だと思えます。
- ・とてもいいと思う。ただめめと宣言するだけでなく、パッチテストではっきり結果を示す方が理解を得られる気がする。
- ・カードを見ると自分がアルコールに弱いことを自覚できるので良いと思います。
- ・いざという時に使えるのはいいと思います。学校の名前があればもっと強制感があっていいかなって思いました！
- ・自分の結果が目に見えて分かるので、自分への戒めにもなると思う。
- ・お酒を飲まされそうになった時に自分の口からは言えなさそうな時でもこれでちゃんと伝えられるので、活用しやすい。
- ・サークルの打ち上げ等で、お酒の無理強い等をされた時に活用できると思うので良いと思います。ただ、そのカードを配っていることを周知させる必要があると思えます。
- ・生徒の安全を守るととてもいいカードだと思えます。これが大阪教育大学だけでなく、日本全体に認知されればすごいと思います。
- ・自分の気持ちを簡単に表示できていいと思う！
- ・電子証明書などがあれば使いやすいかも。
- ・同じカードを持った人を見つけてお酒飲めない同盟が組めるから「飲めませんカード」良いと思います！
- ・カードがあれば目上の人には言いにくいという人でも断りやすい。



- ・ 断りやすい環境作りに繋がっていいと思います。
- ・ 断りにくい人もいるのであると安心できる。カードがあれば心強い。
- ・ 本人が言うだけだと信憑性を疑われるから検査した結果が伝わるならいいと思う。
- ・ 「この人には飲ませてはいけない」と、周りの人が考えられるので、いいことだと思います。
- ・ それを出すのもちょっと恥ずかしい気がするけど、ないよりはある方が絶対にいいし、自分がお酒を飲めないのは自分のせいだと思い込まずにすむ保証書として精神的な面での効果があるかもしれない。
- ・ 飲めない人だけじゃなくて、飲める人も全員が気をつけてアルコールを飲みたくない人に強要しないことが大切だと思います。
- ・ 飲めない人に対してとても役に立てると思います。お酒を飲んですぐ寝てしまいそうに気分がとても悪くなったという小さい頃の記憶があるから、無理に飲んだら本当に死ぬかもしれません。
- ・ レストランでお酒が入ってる料理の場合もあるので、カードが活用しやすい。
- ・ 飲み会などでの強要が減ると思う。
- ・ 相手も理解してくれるからいいと思う。
- ・ 提示することで断りの糸口になりやすい。
- ・ 飲めないを言いやすい雰囲気も作ってあげることも大事だと思った。
- ・ 言わなくても見れば分かる制度を作ってもらっているのでありがたいと思う。
- ・ 助かる人は多いと思います。感謝してる人も多いと思います。だから必要だと思います。
- ・ カードの認知度が上がってアルハラが減ると思う。
- ・ 確実に断れるかはわからないが、方法の1つとして持っておくことはいいと思う。
- ・ 活用しやすいが、それでも強要する人がいそう。
- ・ カードがなくても私は断れるが、あったら確かに楽だと思います。
- ・ 携帯に挟むなど活用できそうだと感じました。
- ・ バッチやシールみたいなので身につけるようにするのがいい。
- ・ カードがあれば安心して飲み会の場に参加できる。
- ・ お酒への体質は個人差があるので、大学でこうした取り組みがあることによって意識が高まると思う。
- ・ カードを見せることで、逆に保健センターについても周知してもらえる。
- ・ カードがあると便利だと思うけど、実際に使うかどうかはそれぞれかなって思う。
- ・ アルコールのテストをちゃんと受けた結果なので相手も納得してくれるだろうからすごく断りやすくなるし、場の雰囲気も悪くならなさそうでありがたいです。
- ・ このようなカードがあっても、相手が酔っていたら意味をなさないとと思う。
- ・ 効力はあまりないと思う。
- ・ 持っていても見せにくい。
- ・ 飲み会の場でカードを出すのは実用しにくい。
- ・ アルハラをしってくるような人はカードを見てもアルハラをしってくると思うのであまり効果がないと思う。

### 【考察】

この調査は1回生を対象としており、回答者の9割がまだ19歳で飲酒は法律上認められていない。飲酒経験についての問いでは、全体の約1割が小学生の時に初めて飲んだと回答しており、その時にお酒を勧めたのは「親・親戚の大人」が半数、次に「自分から進んで飲んだ」であった。薬物乱用防止教育は学校教育の場で進んできているといわれているが、「アルコール依存症」はまだ個人の問題として取り扱われる傾向にあり、家庭での飲酒に対する意識が大きく影響すると考えられる。アルコール依存症は社会問題と考え、「飲酒に関する教育」も含めた薬物教育が小学校から継続して必要だと考えさせられる結果であった。また、「アルコールハラスメントを受けたときに断ることができるか」の問いでは3割強が「断れない・分からない」と回答している。この結果から、まだ飲酒の席を経験していない学生も多く「分からない」と回答したのかもしれない。しかし、206人中9人が「飲めない」、51人が「弱い」という結果であったことから、今後大学入学を機に友人・先輩などとの交流の中でアルコール飲酒の機会があったとき「断る勇気」をもつ必要があることを、今回のアルコールパッチテストの結果で少なくとも意識を持ったことと思う。今後もアルコールパッチテストで自分の体質を知ることきっかけにアルコールに対しての正しい理解を持ってもらえるよう、啓発活動をより一層普及させていきたいと思う。